

【新品種】ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を持つ 有望品種『アイマサリ』の特徴と取組状況について

全域

長崎県主要農産物奨励品種特性表（管内の主要品種について抜粋）

奨励 認定 の別	品種名	病害虫抵抗性					10a 当たり 収量(kg)		休眠期間 (日)		食味	長 所
		疫病	Yモザ イク病	青枯病	そうか病	ジャガイモ シスセン チュウ	春作	秋作	春作	秋作		
奨励 品種	アイマサリ	やや弱	抵抗性	やや弱	やや弱	抵抗性	4,060	3,540	69	97	中 上	・春秋共に多収、早期肥大。ジャガイモシスセンチュウ、Yウイルスに抵抗性
	ニシユタカ	中	やや弱	中	弱	-	3,790	2,680	98	103	中	・倒伏しにくい。春秋共に多収、玉揃いが良い
	アイユタカ	弱	中	弱	弱	抵抗性	3,840	2,330	81	102	中 上	・春秋共に多収、外観極良、調理特性良好、ジャガイモシスセンチュウに抵抗性
認定 品種	メークイン	弱	弱	-	中	-	3,160	-	97	-	上	・食味良、市場価値大

『アイマサリ』の栽培上の留意点として、掘り遅れによる肌荒れやイモの腐敗、高温乾燥による褐色心腐れや乾燥後の降雨による裂開、収穫したイモの休眠期間が短い（芽の動き出しが早い）などがあります。また、極端な早掘りでは他の品種と同様皮むけしやすくなります。栽培する際には適切な土づくりと栽培管理をお願いします。



図 1「アイマサリ」(左)と「ニシユタカ」(右)の塊茎
県農林技術開発センターの成果情報より引用

『アイマサリ』は春秋ともに多収で、早期肥大することから早出しが可能です。

また、外観・食味が良く、ジャガイモシストセンチュウに抵抗性を有することから、県や関係機関では、既存品種から『アイマサリ』への転換を推進しています。

現在、種いもの生産量増加に努めています。また、農林技術開発センターにおいても県内産種いもの利用技術開発と安定生産体系の確立に取り組まれているところです。

【新病害虫】サツマイモ基腐病の発生が県内で 確認されていますので、ご注意ください！

全域

サツマイモ基腐病は2018年に沖縄県で初めて国内発生が確認され、その後、鹿児島県・宮崎県で大きな被害が発生しています。長崎県内では2021年に発生が確認されています。（写真1、2参照：暗褐色に腐敗する症状が認められた）

本病がまん延した場合は、甚大な被害（収穫皆無）を及ぼすことが懸念されます。病原菌は種苗または汚染土壌により伝染します。本病のまん延防止のため、以下の取組にご協力をお願いします。

1. 由来のわかる、健全な種イモ・苗を用いるようにしてください。
2. 疑似症状が見られる苗については放置せず、袋に入れる等の処置を行い廃棄してください。

※本病に関するより詳細な情報については、下記HPをご参照ください。

（外部サイトへのリンク）サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策(令和3年度版) 農研機構
https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/151859.html



写真1 圃場の発生状況



写真2 茎及び諸梗の腐敗状況

写真は、令和2年11月5日付け、長崎県病害虫防除所特殊報第「サツマイモ基腐病」より引用。
<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/kouhou/yosatsu/O2tokushuO21106.pdf>